



社会福祉協議会

尾崎支部だより

No.56

平成26年9月30日発行

各務原市社会福祉協議会
尾崎支部

発行：深田宏一

地域福祉の理解を深める

各務原市社会福祉協議会尾崎支部は、尾崎自治会連合会と共催で、地域福祉について理解を深めるための懇談会を、尾崎中央ふれあい会館で二回開催しました。

一回目は四月二十七日(日)に「地域福祉講座」として、自治会長、福祉委員、民生児童委員、社協尾崎支部常任理事が出席し、関係者から次の説明がありました。

各務原市高齢福祉課からは、要援護高齢者台帳と災害時要援護者台帳についての説明でした。

各務原市社会福祉協議会は、地域福祉を推進するために、共同募金・公衆衛生・介護問題・ホームレス・引きこもり等多岐に渡って活動しています。

地域包括支援センターは、福祉がらみの相談事、高齢者等の権利擁護、介護予防のケアマネジメントを行っており、困り事相談の活用を啓発をしています。

プチトマトは、ボランティア組織で乳幼児とママを対象に、安心して子育ての支援をしています。

近隣ケアは、町内の住人に対する日常の気配りにより、孤独死等を未然に防いでいます。対象は高齢者だけでなく、子供や障害者も含まれます。問題を把握した時は、民生児童委員や自治会役員との連携により対応しています。

これらの説明により、福祉に関する組織についての知識を深めました。

二回目は七月九日(木)に「尾崎の福祉を語る会」として、前回の出席者に加え、各近隣ケアグループ代表、シニアクラブ代表等が出席しました。



2014.4.27 尾崎福祉講座



2014.7.9 尾崎の福祉を語る会

民生児童委員の担当地区ごとに出席者は5グループに分かれ、それぞれが行っている福祉活動の報告と意見交換を行いました。自治会員の状況把握と相互理解を深める取り組み方、高齢者への見守り活動、健康増進・介護予防等、様々な問題について活発な発言がありました。

尾崎地区も高齢化が進み福祉の必要性を身近に感じる中、福祉活動を推進して行く上で、この会の意義を多くの参加者が認識しました。

会員(会費)募集にご協力ください

市社会福祉協議会の財源は、会員の会費(一口500円/年)と事業収入や寄付金や共同募金の配分金などです。

尾崎地区の昨年度の社協会員は1599世帯で、自治会加入2066世帯の約77%でした。地域の皆様から納入していただいた会費の約35%が、支部活動費として支部に交付(還元)されています。

各自治会長さんや班長さんには、会員募集のお世話をお願いしております。地域福祉の充実のために、出来る限り多くの皆様が社協会員になっていただけるよう、よろしくご協力をお願い申し上げます。



おざきフェスティバル2014

福祉コーナー

社協尾崎支部では、今年もおざきフェスティバルで「福祉コーナー」を開設します。体験コーナー(高齢者疑似体験・車椅子体験)、福祉介護よろず相談コーナー、介護用具展示コーナーの3部門です。

皆様のご来場をお待ちしております。

親子サロン「プチトマト」

「プチトマト」は、幼稚園・保育所への就園前の乳幼児とそのママやマタニティママを主な対象にしたサロンです。ママ達は、子供達を自由に遊ばせながら、子供の病気の話、料理の話、買い物の話などの情報を交換しています。このサロンは、ママ達が時間を共有して地域のつながりを作り、安心して楽しい子育てをするための各務原市の子育て事業の一つで、誰でも参加できます。毎月2回、第1と第3の火曜日(10時~12時)に開催しています。なお、移動子ども館は9月末に廃止されました。

連絡先：奈須鏡子さん(尾崎北町7-1-2 TEL058-382-7878)



広報事業委員会

[担当副支部長] 猿渡郁朗

[委員] 福山義和、高坂正寛、鎌田夕喜子、西尾正利
連絡先 090-1623-0581 (福山義和)

「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」

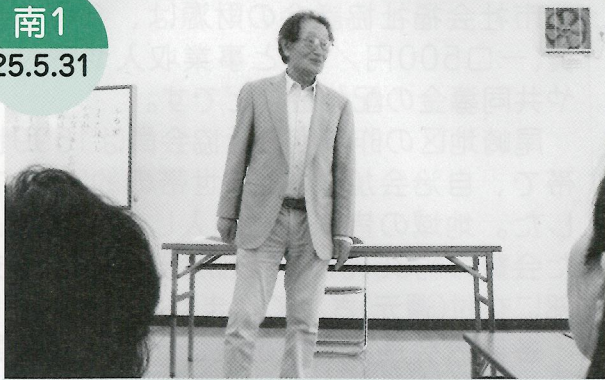
「ふつろの くらしを ひあわせに」

つながり確かめあおう

平成25年度の福祉交流会は、9自治会で計11回開催され、延べ266人が参加しました。掲載写真は、その模様です。交流会は各自治会の福祉への取り組みのきっかけ作りと、自治会員相互のつながりを深めることに役だったと思われます。

今年度の福祉交流会は、既に南1、南3、北1等で開催されています。今後、多くの自治会で開催されることを期待しています。

南1
25.5.31



介護体験の講演と折り鶴づくり

南4
25.11.16



介護保険制度の研修会と懇親会

南6
25.11.12



イキイキ軽スポーツと朗読を聞く会

南3
25.4.20



お花見会

北3
26.3.9



介護保険と老人福祉施設の現状についての勉強会

南5
25.11.8

「笑いのツボ」で
心をつかむ

交通安全落語を披露
する「茂益亭蝶代」こと
清水美恵子さん(56)



笑いヨガと落語など

北4
25.12.10



認知症の予防とその対応について勉強会

北6・7
25.10.18



介護保険制度の研修会

北1
25.7.1



健康体操、昼食会など 稲田園にて

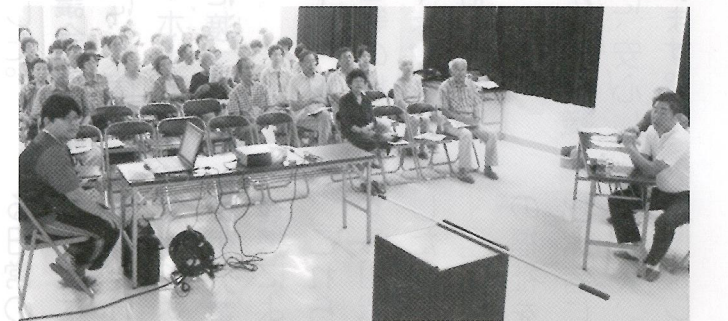
「ぬくもりと やさしさあふれる 我が町尾崎」

あなたもなるかな？認知症

平成26年7月19日(土)に尾崎中央ふれあい会館で、「認知症講話及び介護なんでも相談会」を開催しました。事前の予想を大きく上回る82名の参加者があり、認知症等への関心の高さがうかがえました。講話は、ひらの内科クリニック院長の平野良尚医師により行われ、認知症の中でも圧倒的に多いアルツハイマー型についての話が中心でした。

病状の進行として、初期の記憶障害・失計算から中期の失語・徘徊・幻覚・妄想を経て後期の高度認知障害・排泄障害等に至るケースの説明がありました。「認知症は身近な病気で、65歳以上の約10%が罹っていると言われるので、皆さんの中の数人は該当者です」との講師の発言は、出席者の爆笑を誘いました。この病気は急激には進行しないので、早期発見・早期治療が非常に重要で、完治は困難だが進行を遅らせる良薬が開発されているとのことでした。

介護なんでも相談会では、市高齢福祉課・市社協・地域包括支援センターの担当者から、各機関の業務内容の説明がありました。三機関の仕事には類似性があるが、市は法律に基づき業務を行っており、地域包括支援センターは介護・高齢者等の困りごと相談を行っており、市社協は、障害者・子供・引きこもりの支援等、他の機関に該当しないことを行っている。三機関は連携しながら活動しており、必要に応じて、担当民生児童委員とも連絡を取り合っているとの説明がありました。

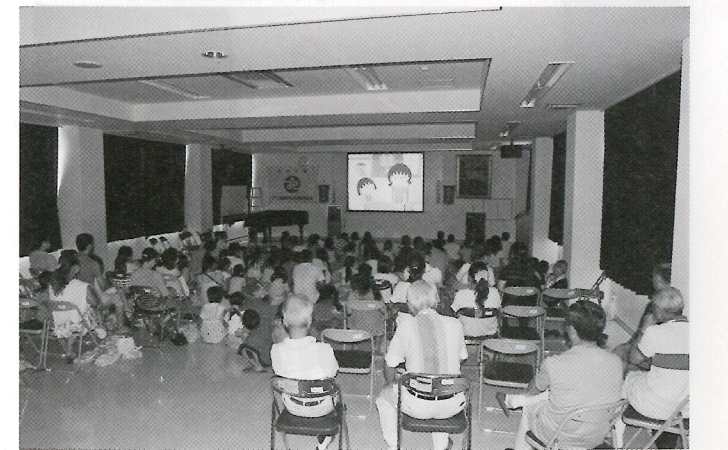


親子で楽しく映画を見ました

「親子ふれあい子供映画館」は、平成26年8月2日(土)午後に尾崎中央ふれあい会館で、尾崎夏祭りの協賛事業として盆踊り当日に実施しました。受付を開始した直後は来場者が少なく心配しましたが、上映開始と共に保護者に手を引かれた子供達が多数来てくれて、最終的には100名を超える参加者になりました。お菓子を食べ、お茶を飲み、言葉を交わしての映画鑑賞は楽しげでした。

上映作品の「ちびまる子ちゃん」と「ドラゴンボール」を子供達は熱心に見入っていましたが、事前のアンケート調査を踏まえての作品選定でしたので、子供達に受け入れられたと思われます。上映時間は1時間半で子供には丁度良

い長さだと思われました。休憩室(授乳用控室)が設けてあり、安心して来ていただけました。家で見るテレビと違い、地域の人達と大画面で見るこの事業は、コミュニティ社会を形成する上で有意義であったと思われます。



「夢のある 明るいまちは 福祉から」